文秀吟冠附かゞみ蔵 全

へ9
3869
99

特
3869
99
99
利
3942
33
大正七年十二月寄
室井平藏氏贈

冠附かづけ

浪華 桐芽菴曲坡撰

鏡みがき

眼ともいくちゝ役者はこ

親やちゝむくるる

洗ひまくれば神楽うた

笑人ゑくぼを中子

頬赤ぐつかく化粧

白人目安人ねる

笑ひけ家内ゝ茶ゝ

いく度も
寄う返やくのうひね織
かたみよ羅なる袋にかけ
嫁入りの日の年
はわ又よりもとびのあて
いそくく
一家よ花のあるむらさき
系解いとゝ下紐ゆるん
すぐ待てあるかよの文著
複いとぐるく故郷の書

国果よあるぐ
美よ新品ゆ仮文
行偽もみせもの別
ろんがひ
林ゝゝゝゝす禅僧主
香奥屋に明るつ高
わ当の新よ仏小僧
小女童よ減らて藁紙子
てくかけく
多焼火偽も玉仲長

杖をとり仕舞の社をつらい
見ぶんの紙ひかるぐと
えらぶ者は坊ッ料理茶屋
酒じゃ〳〵
孫の陰中くに土用ぼ
みんで位ゑだ乳母
懐ひる
いのまよ上げ紙のね職
高の面ざし力捨子
ろりぬ鍋ぐ来く高花

ほんの米
味噌を負婦を清花
言はて拾ぐけぬ笑紙の母
性面をほを地蔵流
男を係し勝ぐ桜
五杉つみ
この拾ぬを飯屋
母の眠むし唖むし
年口を眠を高
母あ塔を紙屋を

とくかく
大のかしぢ吸けて乗込
紙へ[illegible]迯げ上る
狩ゝ[illegible]上る後家
男取つ[illegible]白袴ぞ
丁度[illegible]
八[illegible]ゝ住む狸き
[illegible]と連れ[illegible]子代ハ[illegible]代
笑座ゝ居なく京生下女
三度の咳入[illegible]

力みりゝ
狩への角力[illegible]
狩乃角[illegible]
[illegible]町[illegible]生[illegible]
[illegible]と妾[illegible]の[illegible]
ぬ[illegible]
[illegible]で京[illegible]足[illegible]
おゝ[illegible]みや[illegible]
[illegible]乃[illegible]
大[illegible]

後まを田を苅る是
小て刈ぬこう業人刈退
留守かしく
悪くなてゆく特寡
豊年のきの住るるるや
焚屋へ送入押込場
火焼と嫁のうるいびき
嫁が干上ぬ慢ひ物
行ぬとのうせ
老屋の井戸へ送る個

まる世信の善ひ矢張の喰
鼠のつるよ切ぬ刈
丁稚がかるよゆくる業
十分〳〵
干鰯で香ひ纂角伍
焚屋鼠
いらひ
素凝ぶ食る減ら伝伍子
附ケ塾伝ものを下るはる言
おいぐ〳〵お傷なく纂男

太時よ聖賢人葬郭雅
ろくづらよ
紙定しているかだやきを
妄まぐまつ織の気
狠一ぐぐひよ子大立
よがい教しく
寿イ美世ば天人仏又
砂糖を焼る麝香特
は和江えるる合ね持
貴の鎌嗜よ高の紙

大工よ元玉四郎四郎
ろくづらや
紙遠ひ抓ぐ歩天宮
紙日の高へさに刈ね
砕ぐ葬郭る風呂上
猫ぐ遠ぐ朴おとし
犬て
数ぐ元皮さん刈る藏よ
呵抓ぐちぐ子
小ぐぐらりぬ坊ぐ柔

喫同士　鄭人　国ウ　六

かくして

女夫喫喧嘩する　簞笥

重ひおもの　乗る　横丈

だきの行の　嫁と　べ　家

持人の持る　花見　様

遣

さぶと　枕のある　丁児

喫の　裏を　人体　牧ア　取

夫合く

西瓜　石

脳かく

湯ぶ　煎取る　来る

糸まり　さぶ　嘉　馬

ほりまつ

ねと　喫れる　胴　撰　取

れの世る　ん　光

笑　様　ほ　さ　匂ひ

伸　屋ぶ　御　紙　ひ　器

ぬ　ものを　ほ　ぐ

ん　所　ト　や

温やかなるよ拂う儒者
素くこうこうと雞の聲
よ故雨と碎ん魚仕

一アおべんと五杯半ちハ百匁
三度飯食ハ
お勤をさせる者
了蒙へ預るげとの紙
子の業を小哭遠者
盃中と来る紙仁あ

紙洲きくくみる隙居
老功じゃ
遊ゝ馬性次蕣遊
食るゝみるやるね犬
ふくれ
蔵ふをひとる飯屋
いやゝ月船法屋下女
鳴年の鯉
掃もふ五もるる高
でゝでゝ坊

[illegible]へはおれば高[illegible]
[illegible]球こうんぐ[illegible]藤
[illegible]んでもまんぐで笑つぐ業
まんがきつ
喰盛られ[illegible]ち出つ
[illegible]は蕎麦を吟ふ女夫
チョコ〳〵西瓜を望る干山
商売じゃ
教[illegible]ん[illegible]薬師
考文の誠[illegible]
[illegible]文

大名りん[illegible]小山
盛られ[illegible]雀[illegible]
[illegible]を[illegible]仲居
[illegible]で
[illegible]を[illegible]関
柔よ羽根を[illegible]
十寄盤入る藍玉屋
待国[illegible]る橘米[illegible]
とちまん
紫苑の[illegible]の主
小便しくみる地蔵買

曉氣の際のうつし繁

そんきのくとく

ひしふ秋もの水浴芙

蓉へりぐる賀れ小袖

念佛やきち選りの屋

雞北ぐるとの蓑戻て

百姓べんを孫る張屋

ふくひちなど

鷹の巣ぐる丈

年寄のゆくにる見物

とくとくと

夜盗の工夫

茶のきうぬみる作

こりや面ふひ

きど家で浅布ちゃんぶる丈

蘇医の氣をみりやひぐる

甑蒸の退けく乾る

どけとまり

香奠屋でめくゆ不世中

二ツカで値なき炮烙瓶なら

瀬戸細工夕日焼

雪の夜あくび仕る置や

　むらんこく

酔たん坊に伝く楊弓や

そさむをよのぐさうし坊

関の扉をも鎖し按じ戸に

蛍よる隅田川堤にもとめ

からでこうてやすらう関

忘れておくれ

親仁水屋にちやる毒

あやしく持たげい子

木戸の祀ある社地の母

　晒面じやテへ

誘の誘ある矢来婚

町をとらさぬ迷子呼ひ

掃除しくみる借座敷

　その心意気に成る

吉野山はまへるさくら峠

ふんどし締る按摩とく

毒蛇蝮蝎の類

蹠をうつ

赤ひるまるのかれ堤

蕪閉を送る法花の蕪

門弟る人よ乗て戻る舟

いたりまた

遊所へ行る祇園

祭をぐんもやうを絵

妻をもらふ後 按ず阪

毛ぎてこまとよ毋ぐ

エロウかち

ぢうを知ぺ梅の

嘴不角ゆさ

太鼓をせぬ 柳引

おト天物

旦彫も添乳

付ケ多をもむふくト女

彼ぢけ産ひ 二十石

被の ぢい 恨よぎ

を金る限ぐい

紋の袴つぐ病後間
もなく人の文る嫁入荷

うかれてゞ
おもの高ゝなる下女
知らぬ織ゞ紋ゝ大旦那我鬼
仏様の香の迫る出家の鼻
きゝを鼻眼を吹く煙管

モウ無ひぞ
遠ざかる時さびる荷造
物ゝ人を喰ふ物ゝ仮

ぢうくと
ゴを拾へゝ立ば月
人を張出る月の風
若ひくゝみ和く男子
鼠がひつくかゞみ鏡
仕方なして
世しよ系ふの素ゝ後義
雑ゝ浮世絵偽る多年
引夫よせて悪場合
商買ひよやまあの

馬よりの
脊中陽ひ
鄙板分
流れの
ほっくえん
孝ん陽ひ
馬御まよ
杉まさぎ
おりひ
姫ぎおり

先ぶり
悪作坊こ
樽より
紙と
行拾ひ
太ユのこ
紀の恩

足姫より
姫ひ命を
森酒
命の恩
く、声
立夫して
鬱ひ
陸仕事
おいづ掛け

切く御状
持つた義
倩士の書
乃松下
船の中
鞠間
玉仲
あの兄

陸尺森左衛門枝子越
物ちれく
雪文あるひ たいうち
藤まるとぷちまちふ傳
聞生しうく
月形用口さんお歩
雪端の来る枝口入
花持ぶ紀ちる製切の坊
行仕ぶく
城あるく冬も初春白

屋の技ちるかるる
女雛と減く陽氣ちる
叫卦の生い老夫婦
夢麦いてやる正月氣
うちちるく
九日正月ヨリ漁屋
不足の生ち 祇園屋
漁あよ茶ぷさ百年忌
ちるれあ生ちが入
書から

井戸ぎせる　如井戸

下戸義とつへ蔵もの

銀ないかりしなん一つ同宗

かさるる

頭の衣持てし嫁入

傍えで服ぶら大すた白

竿牛蒡のよ牛屋

サヘせるし

磨ぐ　導　入

逆糸義ながら拭へる盃

油ようでる　枕板　川

鍋　森をさせぬ　屋町

行へ

石よ　あ　屋造

風のるかる　橋茶屋

坊屋ろる　解る雪

だくさんよ

鼠のこつある元食　嗅

すーよ我杉京の

五つ文まけ　安の家

物ゝあく立ち寄る屋
方くゝ
大祭まかづる寡の子
中のりち飽き強みて
帯をして
肌のゆるまぬ嫁の母
世秋は掃除を仕る座
五百目よ咲む支移ぎ
乳ぎをそえく選ぶの屋
中よ

ぬ所ゝ
かゝ絲義分ふ
仲義のて与る安ふ
乳母乃ちくぐ渡し船
いつの事
名の職神ぶる詞人て
流水面探る代
前生
社妻と勝ふて書
二階ゝ

然れば待つ間道更に
空をくくり
焚ひくのちひ婦人の鼻
の焚弦の兵衛もる糊屋
伏向ひくゝ知る時の母
やうくよ
かくくと商人ロ呉服店
名所おしへる京の五十
三人の乗よ入り替
待儲る小ぶるの五

二ツ三ツ
ぶらぶら歩行の見物
おもしろ廓樓ヲ
まて形よ買て戻る時魚
日の暮よ
他も炭と重く開帳茶や
時の待くく芝居裏
嘩の美ものうつぼ杉地
内の明コる新うれ
花見ぶりの咎る嶋

表めぐる、こと
日出まの都をうつる盡蔵
まろうとろつる団扇杯盃
ぢんちやんと
女夫ま成まぬ床子の盤
大勢ま何く父ち子で
ぎれがお家さん軽掃除
差ぶ家へまよ体俗の湯
ゑんてわくれ
鬼子の負慨ちるおふく

銚信あまくくみつる亦あ
て子可愛がり一生浅情ぶど
お前へ党を含む後ねね
何シの若ますよ一
足当鳥の川浅ミ
燥掃やうる煙紫ぶし
計算ぶ戻を嬉媚
一 せくもしい
夫婦の子ひ下浅の子
下駄の年代よよ参候

やうはしへ
明の辯うま　後目　後
若通　口て　通る　窩
きつ〳〵と　た　怪めき
後記の　後へ　未さ　丈
おさまつく
年貢　辯　後
減　去る　曲の　怪
精進あげて　男　行通
裏を　出て　歩く　高

森伯かん　茶屋
後記いぶ　さだに　後
かづきで　通る　高　門
暇　弟
別　後めく　途中
上よ　送出　下女
めしまして
去の　呼　住　怪
搗　ひこ　左　変

ちらりと見えし迄入傘
迎りの
のぼりのてひ新の又
妻後まぐらいい嫁
鍬くゝ人類遣前
おくゝ
鼻の神道先
宮へ角帽の傑作
おがましく
慎ひ後び後女房

居ゝ主傳業
明まで石後ちく町髪結
二階を下ゝ男作遣
旦那でゝ
地灯籠ひ
裏長ゝ家屋
麦紙嗜いく一別家
天ゝテく
柿の皮剥ゝ彩付屋
遵ふまぐんく

ゆかくと
川止聞と時元姉
矢立ゆ亜洲の旅
肉の使を住る元郷
遇ひる 明貴明
涼しる
毎のうごめ西面祐
旦形之のみ杉為
明でか祝ちお
礼つにまども男侍

乳ぶろ
俗とゆの孫ひ俗
幕引遠も上るき
上がものなる職人町
入が我入
器ちゃぷ嘉孔為
織名みる角加取
女家ちつ賀セ菓
物人ぶ孫の借ム蔵ま
やうけ

街道の道ひ　日産大工
了士がこゝに國産有
嫁入をこゝ　江戸の町
きのもゝひのあるまいし
おく　後を著
暗　砌　棚へ
待　跡ぢの乾く度
拭ものべる　の傾
久三をねく風ばら日
天の五器さら　弁持

紅葉賀　初日果
きもやう　天数
人の屋敷
ばれてこげくの紅葉特
鶏　接入　遠近　身
世　くり上げ　庭の根
くはく
盃の世話　下戸社
前　前で　四社
出来て　不仕

四つ橋ぐ徒面白
我が国の米うけ枝
堂どやて
耳のふくゝ根国
あかこどもい吟ぬ魂
云ひて
ぬ傍の母
掛取ぶう材木
遍て人をいるもを立喰
雲失ふ角力

鶯虎うて去て噪
ぬうゝ
春はりで参る材木屋
掛立ぶれぞく牧場後り
ぬ川べてと
代呂おうと仲人口
味もあぷうゝ紙屋
帰をかけるむ畳ばし
遠まをいく八杉完
大なる阪人吟人素陵

七兵衛おとて戻る支
教学の市れ抱く強る
動変場工あ二り碓

れ
一歩の投出次第の
下女ちぶと住ろ知へ家
寺れふあるひでる
湯のこと行く者公
門をぶとまもて母
ぬぶ佛宮を

飽ろあ抱ろ女房
一度を見ろ富士の美
お人ぐろと遊ぶ男
ぶりぶよい
下見の困ば三乃限
毛所で住る強り刹
暖ろ
為けてみる仕二の
戻らぬ夫よ投よ学れ

常比刻やうよ掃
除東わらこと減医
狂もるも
ぐ行て孝ぐ古傳まと
動定の色ひ音ハい多濃
云等ハ乃德ちひ義
高を知ぬ遠慮う
杉はんん
嘗もなり位上戸
を近ぢを新造宮

鬼ぬ足ふ
員凝まへ出ぢぬ生
京ケ千代明ハ常仲西
羽生ものの
喧嘩の色ふ俗の雑
新ふて学ふ飯の皮
製の色つの扶ふ魚
鬢ふまそ生嘔ぶ苦
ちつ
慮毒侍入れる妻の下女

鼠ふるおふる蝕
十筋ばかり髮おく赤元
逆抱く抱る抱ふ主
ちちりり
ナマセの退うぬ文出れ
寒の衣服立つ浦ろ
時ろを寒く所地義淫
風邪のやんじ風ろ
ちちろの出る姉女帝

先板陽蓋
夫が仕む指
陽入れ
妙見寺古淫
背丘妄
現造況化者
牧りの強る宋戸
古柳へ石出る書
冒出ひ葬出化聲

ましきげん
色のおかし仲人ごとく
すぐ酔たしれぬ位上戸
田舎入婿の出来たゞ女よ
嫁子れたぐ花嫁色
寄手所で
傾見しくみだれ髪
桃灯ともそ筵しき
関ままず気の夫の実
狼ケ見るん

夢のかうほさ謹伏ゆや
乳上仕上て立生ず丈夫
新書はずれ玉子とも
すゞあうひ
名所の重地河ゝ御通
父が後さぬ勝の徒
うれ涙く人さされ桁
入運岸しく年忘
下さるゝ
咲吹きる犬のえ

みそ萩まで咲 儒 買
なるくなんさし
挑灯借りいぬ大工
命の親ともなる医士
樋口が連れし夫婦二人
菓子見ましけて小児医者
中ぐらい
東の船より買ふて来る蒲団
水茶屋の娘業かの奥座
献立女夫が揉み合ひ

紙ひそく
湯上りへ吹く春あらし
星祭人所へ涙のみて
弟子を育てる師匠や
のろさみ気がついて不心情好き
悦ッ立入
ゑかし神拙買ふ絵士
負募よ土合ある茶器や
本書の墓参しるあ
ちどりあり

蘭こうに出る前がし
六部が通る魚の売
小役人笑ひ乾物屋
一声叫ぶ球磨

幻次
花盗人と
吐く母
そらいろの手紙
縁と合ふ
花車

思ひの外
雲雀
春の日の
暮れ

鍛冶屋迎ひ前がーと
有つるか出て来る母
鼾のかきもん新枕
同行家形仕文の辞
鼠穴のかくれ
花の野
花の歌

蕎麦
老夫婦
高ぶる
重け桜
抱く食傳
妾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そくつあまて
兼九が浮かひ紅粉の残
鼻ヶ脊めつくて山形縁
秋ものぶ傳水魂を流
耶みろくて家ちをつくり茶
出添いし
風呂をむえさ次入
鼻の薬粉を敬やく
べ紅粉姉本して悪魔退
引まけく

全盛之せむ遊衣装
粋まれ鼻く出ぬ娘子
孫が愛相のかゆて盃
みくしまらく
優しまじみする江戸訛
諸先をふくらく形子と
川為ふあふ息をちろめうく
方くし一のら
月れてしるむ傷夫の肉
男柄盗人かまる存て

馴しみ世話しい国ざ年
ねぢれあく　しき
まづ蔵入お勘定うらひ苦
緑り夕かるさ佳ろ奴や
世帯し宝ぢ気よ入ぬ新
やゝしのよ
母の産様も角力取
生げうく楼婚の子
青田ずかたく孫の木戸
家きなむさし次幕後方

婿喰こせり坂持行嫁
ぞろ助く
出世無うき玉げい子
名聞やよし鬼さし
扇よりまつへさ失容女
花ぐしうう
嫌下でいさむハレい坂方
をし晦く膳をおろと蒔
松とけ精ぐ行おふく
貧乏して居る立役志

是ハしやまり
凡額さ額く印く様
五形ちむもち活しく丹
雲が嫉く兄姿の様
たもね鞠が来く落花
かくこなるやうく蝶の盤
新家が回エ八寅の旧じゃ
戻つさあがこ傷る神
おしいやの
男やきりの歌吹く

種ぶけ凌ス実の香
芦足然とそく出で察人
おレタの嶋名の丈夫
是魅が近ひ
家備く踊ル手うう棚
主としるく負足柿
更出ル渡合仕ル別家
き可觸し
猿の近いうつ花くん蘂子
消費ひろて出る新

新の却えへ居る者
突せんぼう
大抵のうるる抽芝居
きるり経た 男
世の中じゃ
出用のたる出用丁
倹約を使る 在賀至
まるまた
結の糖ぬ 西
菊抽く 新の母

ちりる 道具丈
蔦の葉ヲ結る
入ぬ案つる 小児医者
つる 拂ひの長煙管
丸 男
八尾てる壹わ 塩高撥
おる 様を出る 男
秋じゃナヲ
お合自在ぶく 皮
新のりるる餅や

桔梗のない在所ハ野暮る
正月皆うしさ涼江
将棊より強く洞仙人
柳緑へ茶汲縁覚菜や
とんだん持チ
かくの出る嫁持を父
法師の能をうくる僕や
菊石と別家をる事故
若い者が拗る回至後家
掃の懐い涙がちひ

関事おごりは利銭ある
むかしくらと
ぞうんのめぶ川在出嫁
熊がうごきは実の尻
くれかるき
東子流ささと手習子の刻
身持ある精が出るのを
算さんを起して聟嫁の手
手がつかへく居る杖ある
瞽者の工面往ん藪医

[illegible]
ふるまふ人屏風やう幇間
揚さげ[illegible]
[illegible]おやと駄の友
坊主[illegible]遣さん地獄
[illegible]
[illegible]の味知る[illegible]寮人
母の[illegible]の[illegible]義理の[illegible]
焼餅ひ[illegible]仕る女房
我[illegible]ハ道具[illegible]書

そしらぬ顔
[illegible]が[illegible]道同人
交互のつ[illegible]丈[illegible]け
[illegible]丈情[illegible]弁当
ハ百[illegible]犬
芝居仲間く[illegible]
[illegible]我子[illegible]父
化[illegible]
三人の[illegible]渡り初
月代剃[illegible]掛戸服

[illegible] 女形

天道[illegible]

小利の[illegible]下 仕る 十日

[illegible]の[illegible] 石性

出山電 [illegible] 戻

[illegible]り成仏

地物[illegible]

投授の[illegible] 時ス 茶や

出[illegible]り [illegible] 男 [illegible]

[illegible]

[illegible]義し[illegible]や

初時 [illegible]てんば

子の日 [illegible] 籠子

[illegible]付る 元 [illegible] 次

[illegible]て [illegible] 吉也 菜

[illegible]ヨ [illegible] 花小蝶

[illegible] 女 [illegible] 籠ケ 鶏

[illegible] 霊 [illegible] 居る [illegible]

[illegible]

[illegible]くらべ　亀やの戸
安ウ寺　[illegible]たる茶器屋
父の名　[illegible]　天満宮社日

モウ[illegible]ぞ
[illegible]ん　[illegible]　[illegible]医
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]つ[illegible]
[illegible]人　[illegible]　[illegible]市
[illegible]　[illegible]理の父
今日も[illegible]の書の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]
仲人の[illegible]知り[illegible]
[illegible]てく[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちうもん
雪頂て傳の入る法居
梟のせんべいの面めん
さうさ面うさ唐ゆう
掛出の若いろ和ろ士
辻りこけ
天ぐ面ぐろ おくり 猿
松草ぐたチル出 仏
ちうつ面
岩と苔との中のき

ちうぐ
竹のふれ 渡 父
宮生捕て 兎
屋 ふりう面
反墓ちうじ ち 男
市蕊の 憎い女い
梟のいはんの青漆刺
大原女ヨ煮 ん
日傘うりひつちぐる
葉こんん面
煙ちまれう面いま 節葉

反物一の箇まゝ数延し
宿
大も惜まれの朝
口明ケ
天窓さかずく伊勢の稚子
見ぬかりぬ日の扇さ
親まりく氣薬の子
立ち南の
座頭が養る梅さり
町一きりつゝ名大
宗筆も読さ雑帳

貧乏ゑらも
かゝる詞さらしの朝
足ぬりはせぬ男達
衣裳さゝげる此人
一句あり
鑿汲亀元よしさ子持
豊隣獅子悪業石
家主がむしろ自在の火
延　ぼうずさ
地蔵の行く角蔵る大名

親を忍び涙を作
芝居見るのしやない夫人
ちんかんと
耳の聞く　三陸国
一番のきつ川第一屋敷
乱れかりそめ　後妻　女
きせ丈のたぐそこ吉蔵頃
中のく留る風る祖父
ヒロも大工のくら風
物　後ろ　の　業

役をね
婆多おさらも髪不
おしをを女代　仏　伽
出世しるこをめ父
行義ら人
仕多いる事あの若る
次も　ら　る力彼治
糸物　玉のこ
物　合ね
方うちが考足佐

[illegible]
姑てらしに出て来る[illegible]沼
[illegible]へ[illegible]
初めの[illegible]市の側
お[illegible]さに母[illegible]
明戸を叩く母[illegible]
[illegible]
毛出のいんきょ年[illegible]
[illegible]へ行[illegible]
至[illegible]

[illegible]
仲人小沢[illegible]
朱[illegible]を出[illegible]
[illegible]
[illegible]
清[illegible]チャル[illegible]
[illegible]七光
麦[illegible]
[illegible]
小使ちゃん
焼[illegible]

[illegible]入宮の
高[illegible]
[illegible]の孫の[illegible]高
[illegible]昭
[illegible]十日
[illegible]玉仏石
[illegible]
[illegible]仙や
[illegible]殿
[illegible]高
[illegible]
[illegible]

[illegible]味しい
[illegible]実
[illegible]師の[illegible]
[illegible]高
[illegible]八尾の市
[illegible]
[illegible]
[illegible]越駿
[illegible]
[illegible]

居ハのまゝ箒婿
糠抜香のものゝ亭主
拵元仕舞ゝ乳のし
ましてこそ
口入日傭とる姑
乾しうちくぐ寄るむこを
乗居を仕切わけまる
手ぢしよ
浪人ぶんぬ刀鍛冶
塩八蔵入まる　丁犬

殷訟玉よ嘴の留主
大黒ゑめ
親むれよ百萬遍
傘かへし講頭
寒の抄い箪笥鍋
かぶり振
舞子よ嘘さるる　嘉壱
額の帽子よたん妹
女房といふも錆染のい
盛が来ゝ

毎日がやく寺　ぼくと
ちの縁くみる　雄猫
ちとのむうや
ゆくはゆくとまるる小地町
蓋ゆうまめ　神　拾ろ長
和へ名まる　まる家
孫宝くく
遂ふ　ちまとまる前之居
ムこ宝ゆ　ぼくゆる底屋
旅人　文のうしん舞

読みうり
小判　あ　拾ひ　二十鶴代
婚へ　通夏　出毎い　長
面白ぶり　あ　拾ひ　唄
茶の間の　仕　丁
書場　ろる　ぼ　家
けんもほろ
笑屋　要さ　鮫
茶屋いる　素顔　安
陰茶　ろ　通ろ　重ち

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]橋の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

ヤレ[illegible]ろし

[illegible]の味し[illegible]

石[illegible]せな[illegible]

[illegible]小[illegible]

口入の[illegible]

[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかうけ
更出
うば毋
江戸
たんぐ
代刺
友達
たんく
高雄

三
宿
針
陸
陸
うんな
舟
組

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
冬がそらくる[illegible]
さくらもり　無うのや
磨うり番　[illegible]田舎
長屋さらし
商売の繁のあるん
人のもとへ　[illegible]場
名もうるもの
[illegible]れ

[illegible]
[illegible]
水場[illegible]
一升米買へ　悪女史
チヤリ切も[illegible]
一[illegible]
おつしやるもの[illegible]
紙冊[illegible]る　新[illegible]
[illegible]のあん[illegible]田地
[illegible]
江戸[illegible]

[illegible]屋叮る素
毒へ駈そぐ
[illegible]
お[illegible]の羽織る伊五
日[illegible]百姓やるすゆ
[illegible]仲五
[illegible]
新[illegible]藤わさ[illegible]隠居

二ノ[illegible]
宮語ちひぐひ云い伊人
別さいか百[illegible]
[illegible]父

[illegible]つさ[illegible]
辟しんばのめる寡の蘇
岩[illegible]を城ら[illegible]
[illegible]子[illegible]ら岩道へ
[illegible]
鉢ぶけ[illegible]れかぶり附
[illegible]わる[illegible]
[illegible]る[illegible]
[illegible]
[illegible]て
[illegible]
[illegible]い岩田常

嫁入荷物の中に母様
河ぐのぐぶたよ行ッて見
ふこ〳〵と
嶮なる路を元
猪つく一文へくも食
おりとの沖ぶるおく
去何事捨てわら殺て呉
扶持捨あ女島
病床ぐねく雪の寸
て言ふ〳〵のえ

新しきものを買ひ足附
あこぶ事に
雲のせうい文字古更
ふい兼拍子ち沖斗
おい事百宮ぶ好燈
新しえ
ゆ立蓉れ見いろや
見那の多の雲見る畜改
戦ふたつる 細字父
いりもも

慢い小丸れる拙嫁
三一三十を先
莖の味ない実の間
いろ〳〵よ
人の行ごひを見る繁重
毎日ちがう拙りし
子の容よ来〳〵六日斎
紐の音公を教医
後世よ激さ
西方寺
ちぐ〳〵と

八日は自傷
弱る老わの老し表
親父は漢文
嘆くに
そんを抜を仕
母は眠ない
附る河
出を
登りの白
泣り
むさいを
あれちを
あるも

大乃の石　姫ら　殿様や
て宮の元　ふ　瀬の嵯
嵯峨の川　く　乗女弟子
姫しき
家新あり　出る　角力取
池あり　月　択
読人　母の　孫
強り　賢　父
芸人を切よ　菖蒲を力
子拾　魚　吟
十分しや
戸　侍　下戸　亭主
没家　名奇　嵯峨
絹山姫の　賀のいと
丈夫
何の綾切レ　ぬ　書子
家　て　大蔵
姫よ　書ら　書子
ひ
赤人　張美　茄子

子は元服をさせ
別家をさせ代
拾ヶ月完了
の梅
川西
母も首をつる
意地悪
仕立て
合仲中
紙屋
貸人
口入

撥
算盤一荷
伊士
自慢して
奥様
奴
吞やの子
欲
子
丈
仕業
情
寿の兄
娘
亜や
小五郎
嫁
仕向

鼻うつ糟田長
[illegible]
初日の猪いめる
冥

揺つけ
たこ[illegible]
[illegible]師
子もを[illegible]せる[illegible]老女
[illegible]へ[illegible]糟出
[illegible]
借[illegible]
[illegible]人
[illegible]婆[illegible]や

耶[illegible]
[illegible]在の伯父
[illegible]を[illegible]
[illegible]河[illegible]
[illegible]の家の[illegible]の
[illegible]
[illegible]世[illegible]の乳
[illegible]様[illegible]夫
[illegible]温[illegible]
お[illegible]母[illegible]
[illegible]
[illegible]の湯[illegible]

輕業にく婦ぎんこ
故に遠かてうる數医
雑うげ
くるまのうる大井川
下女ぐ紙よ　初霜白
けしうるね
文のウナルれ軍隊家
馬も乗りうる乗ノ八の屋
九雪色こむ大系瓶
悪じやなる

老吏よ見うる小男のの
下先ぐ右に月見の板
こ云而と吏に高砂板赤
屋ふもまね
紅で品をもあう鯉つこ
老年鶴よ　仲居
との後に菊石を筆ム売
鼬切さうる　鼠謝り
接ぎ
村母猴のよ長　潜

家梅法師ゲ行ク宮源
ちくさの僧いとまこと
髭黒 高麗 遠お遠
かゝてうこと
井戸ゆ遠 材木屋
ふしん法 高麗や
ゑみ遠デ 咲 歩行ラ
ひとくと
花見ものの笑や
梅いとゝ 大 嵐

胡四ひよる 嬉 東
やけよる
矢蔵 止メよ 毛刺
うちく 石 大 丁 也
お 居 細 小 玉
駅の 日 海 出 脊
ちんぐう
麩の端 大 海 蠅
嬉ゴ 持 朱 魚 紅
一文 ちくく

砂糖やを舐めて嘗て吹
紹見して
色々の菓子
[illegible]
表屋の高を過ぎ家形
[illegible]
[illegible]
[illegible]
嫁と情を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
つぎ[illegible]
子持ちの[illegible]
[illegible]
[illegible]

煙管屋

なぐさこたへ

猫ゑ絵ざうし

焼めしろくろ買人寿

個ゑ唐ゑく仕掛菓子

空地て日負しる 塩屋

栗筋も

鮫ゑ門の行ゑ数医

お茶の下向 花寺

川てもよ

茶ゑ水と 八洲の嫁

菊石ゑ 稼ゑ

仮住ゑ法を ゑる抹梁

奇人 鬢 彩ゑ

山 郎ゑ 冠ゑ

サアゑ出

地株しうけて来る 丁ゑ

ご毛へ巨燈と ゑ

ゑくゑいゑ

世界ゑ 約種町

[illegible]
天井素ふくを長鳴
コリヤ滑
おいくりとる子を箱
多屋をまめる百ゝ壺
[illegible]
人[illegible]て出る蚊
[illegible]
[illegible]
[illegible]合羽
[illegible]

[illegible]徒宣[illegible]碑[illegible]
[illegible]氣[illegible]押出へ
[illegible]て
仲人の粋れ[illegible]の[illegible]
[illegible]善[illegible]の[illegible]
[illegible]嫁[illegible]義[illegible]の母
[illegible]
[illegible]仕[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]札[illegible]

ユリヤ
十夜法
ちゝけ時も
鞠姫
讀て
古歌
吉文字
哀しく
いつもいう
庫子
ちく書子
おひけ売
ヤレくまあ
子しを嫁
戻つて
墓果
起本
壺
石樋
ちんくと
父
おひけ売
ヤレくまあ
子しを嫁
戻つて
墓果
起本
壺
石樋

ちまき　柏　ゆう　掘子
細切　下畢　ちまき　けいこ　同士
素麺　煙草　菓子だん
風呂　物　中
扇　捨　ふる　中井　丈
戸　柳　のうち　横笠屋
横　柱　くら　清水　燈
殘　名　ちい　小ら　出
入　智　母
嘴　名　絶　白　帯

弁当　ちい　弁当　通　去　上戸
肢　乗　食　の　丈　柳

赤川　うと
わ　ふる　持　人　羊
嵐　嘴　一　汁
湯　玉　味　さうれ　皮　ぼり
和　ふら　振　ら　娘　の　子
贊　屋　自筆　れ　日　掛帳
言　出　の　持　清　形　鏡
さら　高

代の
恵いろうの
くるいぜんを
をとめ
大木戸

たたかう
数へ
小に
出て
恵嫁
姑

白眼
房
情
世
耳のひろつく

家
外
恵

面人が雪りみん生業に苦しき小法
師冥加ようくう仕る始末
翌日そばるうえ女房
ちうとく切をかくる干
弥三郎くく
舟ぞうやく
やふれ網
ひし波くわる五十九枚
水ろへ落る別段
痛うい

乳房かうるる賜ばば
指ても花はちる細字
始終刺あ雑記
取うへ舟
ヒロも花見よ元素数
女中を見せる小男初や
さ蛇のをを抱く乳りい
表やをうる一別家
ようう縫入ちる数医
ちう嘘ぶる

喧嘩せしもの
嫁いつて来る仲人嘆
孫起の長い出来根
日うち拾う古襤子
矣足よりの
亀で海ぐ
親へ手紙
たうりを吟ずる水新書
海人海とした新枕
吏姫姉こ話す

碁屋へつまい老女
見うゆ
歯ぶけ
小山を登る
二階のうり素ぐや
常ひゆるなる清軽采
足せく呉
現れたる酔ぐ
子神この見さとる素
嘆をあるる枕絵

清世へ同じく掛る袴
ふぐうりの麻製法
初メうら
六寸ばかりこがらしわ
着ること却りて絹絨
業八月うるうなる姫
明通が用る三陽月
素めうら
白酒是世れ出るつ
冬至の紗着板

新米しくとれ
蒸物をいたき結果る
風俗を第一暦うり
川さうれ
大ふく百目ばかり
坊ゆて寿
見かけ重乃具
かへる原嘆いせ話やと
新年まち角丁吹
まて嫁いらく父の新

蓋しめて

氣のせうしきの別業当
鞠ちらし業は うら業成
嘘の不足を紀く 尊主
掛とりいろは 鞠屋
名を玉をまぜうら 掛广取
敵をかくし 婆おやし

氣をかく
嘘と海老長 封中 習
仲居の業よ 男の子

在 可愛ぐり
巾着売り 仮妻
子は業 表うく
小玉大きうし 女房
日出ちく

鰹の 酔ひ 取りや
夫は 親とし 梶や
法ちく 拾ち 嘘やく

冠附名付親　近刻

同　後の栞　全

同　青砥石　全

和泉國堺二丁目二六番地

大島弥都彦

本主　小坂師

北野辰蔵所持

[illegible]橋筋北久太郎町

藤屋德兵衛

含章堂誹書畧目

冠附鏡磨　桐茅庵曲披撰

同名付親　艸竹亭鬼力撰

同後の栞　鼠六坊巳勢撰

同水加減　桐茅庵曲披撰

北久太良町心齋橋通
大阪書林　藤屋德兵衛版